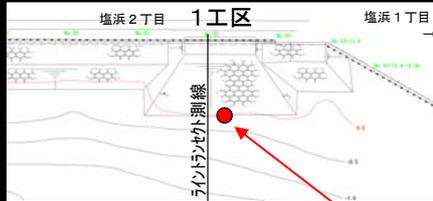


3. 重要種の定着状況

3-1 調査結果

平成19年8月27日調査(施工後約1年)で、**1工区**の低潮帯において重要種ウネナシトマヤガイの生貝1個体を確認した。



確認箇所



千葉県レッドデータブック記載種, ランク:A

3-2 重要種の定着に関する検証基準

検証項目	目標達成時期	検証場所	基準とする値
ウネナシトマヤガイの個体数	施工後5~10年	平成18年度施工の石積護岸の潮間帯~潮下帯	確認されること(1個体/m ² 以上) 但し、確認箇所は複数箇所とする。

施工後約1年経過



1工区の低潮帯において、重要種(ウネナシトマヤガイ)の生貝を1個体を確認。

目標達成基準1に対する検証と評価

25

目標達成基準1 マガキを主体とした潮間帯生物群集が、改修後の石積護岸の潮間帯に定着し、カキ殻の間隙が他の生物の隠れ場、産卵場などに利用され潮間帯のハビタットとして機能すること

検証結果

- 潮間帯ハビタットの基盤となる中・低潮帯におけるマガキの着生面積は、検証基準を満たしている。
- 新たに形成された石積み護岸の潮間帯では、石積間隙が生息空間として利用され、生物の採餌場、隠れ場、幼稚子の成育場として利用され、ハビタットとしての機能を発揮しつつある。
- 重要種ウネナシマヤガイについては、1箇所のみであるが、施工後1年で定着が確認された。

工事一年後の評価

1工区潮間帯は、マガキの再定着によりハビタットの基盤が形成されるとともに、様々な海生生物の利用状況から、石積護岸が潮間帯のハビタットとして機能しているものと評価できる。
但し、潮間帯生物相は、成立後一年の初期段階にあること、また、重要種ウネナシマヤガイについては、予測より早い再定着がみられたものの、1箇所のみ確認である。よって、引き続き、モニタリング調査により検証を継続する。

個別目標:環境………周辺生態系の保全

目標達成基準2

周辺海底地形に洗掘等の著しい変化が生じないこと

地形調査結果及び底質(粒度)調査結果から検証を行う。

26

1. 海底地形の状況

1-1 調査結果

(1) 調査実施状況

- ・平成18年3月：施工前
- ・平成18年9月：施工後約1ヶ月
- ・平成19年4月：施工後約8ヶ月
- ・平成19年9月3日：施工後約1年
- ・平成19年9月18日：施工後約1年(台風9号通過後)※

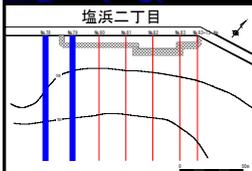
※主要3測線のみ計測

(2) 調査方法

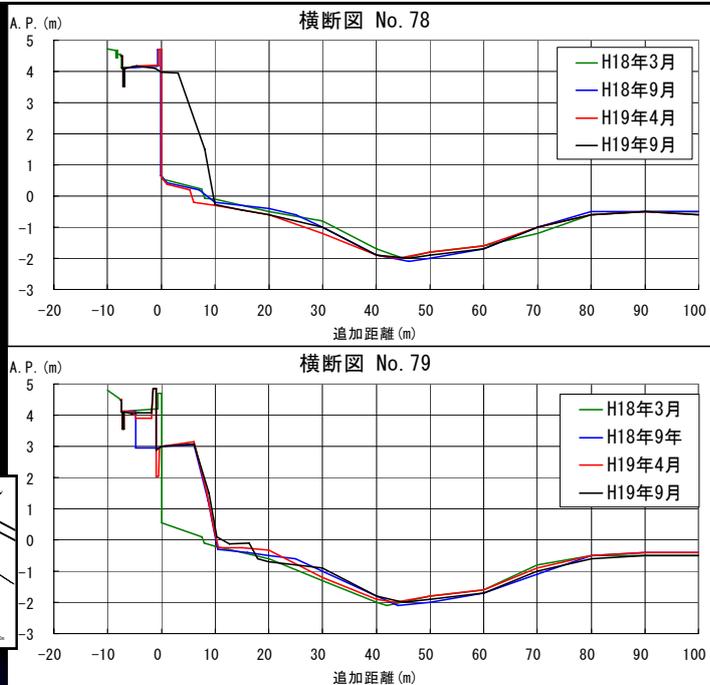
音響測深器による深淺測量、及び汀線測量による。

測線No.78 及び 測線No.79

※H19年9月は台風9号通過前の9月3日測量結果

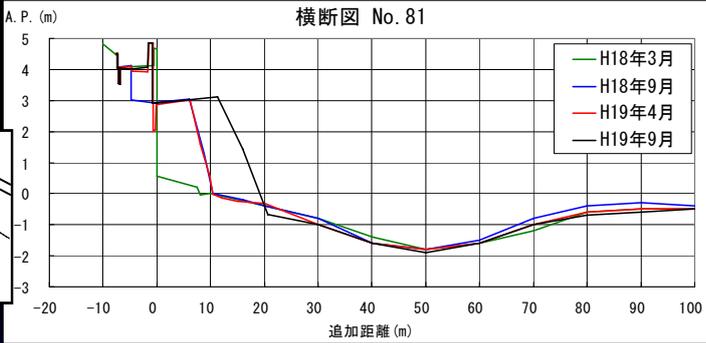
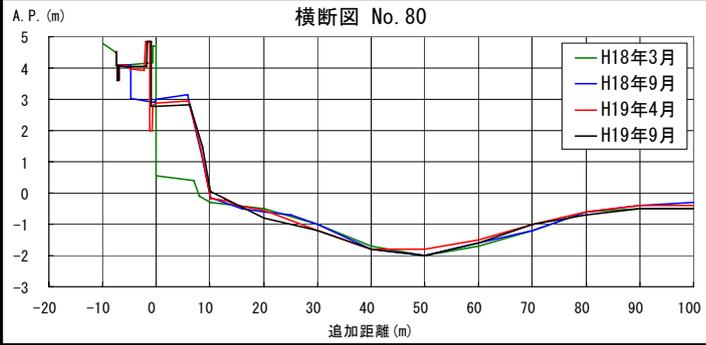
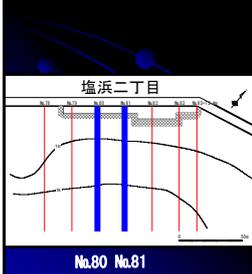


No.78 No.79



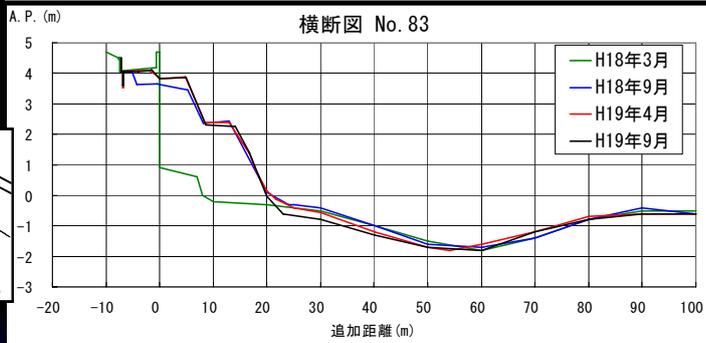
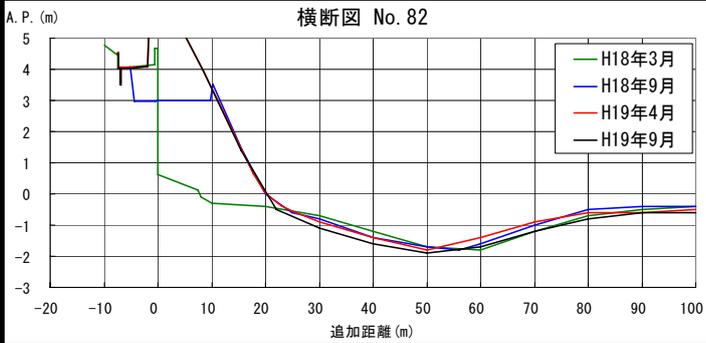
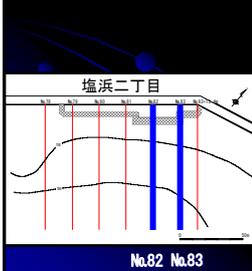
**測線No.80
及び
測線No.81**

※H19年9月は台風
9号通過前の9月
3日測量結果

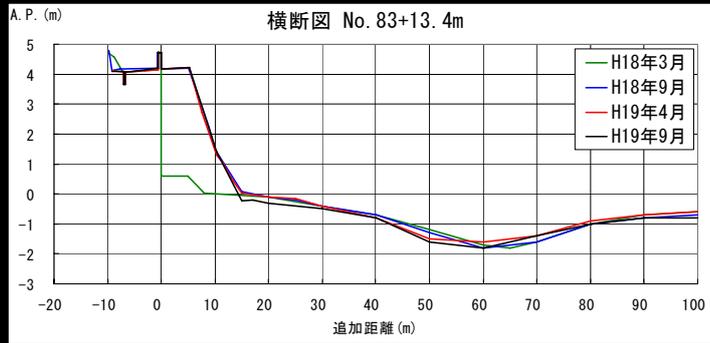


**測線No.82
及び
測線No.83**

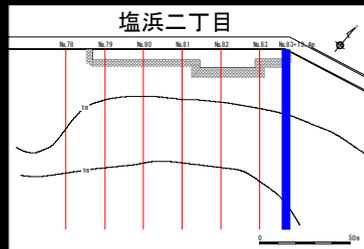
※H19年9月は台風
9号通過前の9月
3日測量結果



**測線
No.83+13.4m**



※H19年9月は台風9号通過前の9月3日測量結果

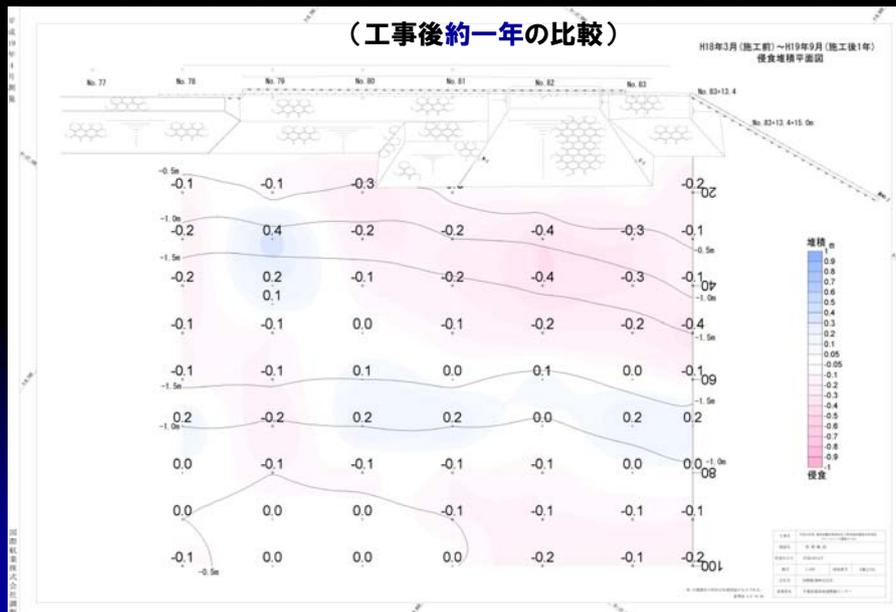


No.83+13.4m

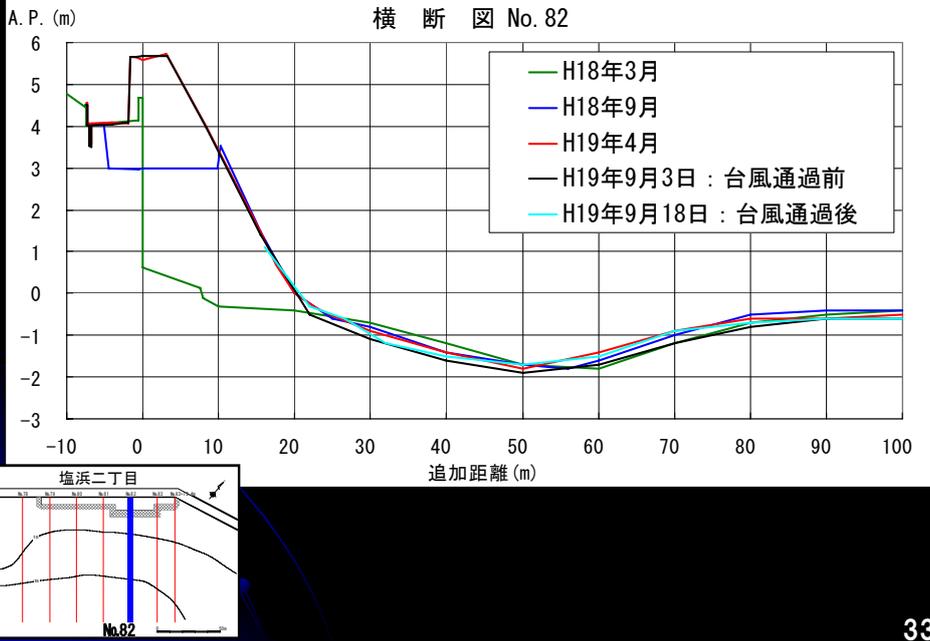
1工区周辺域の面的な海底地形の変化

平成18年3月22日と平成19年9月3日(台風9号通過前)の比較

(工事後約一年の比較)



台風通過後の海底地形の状況



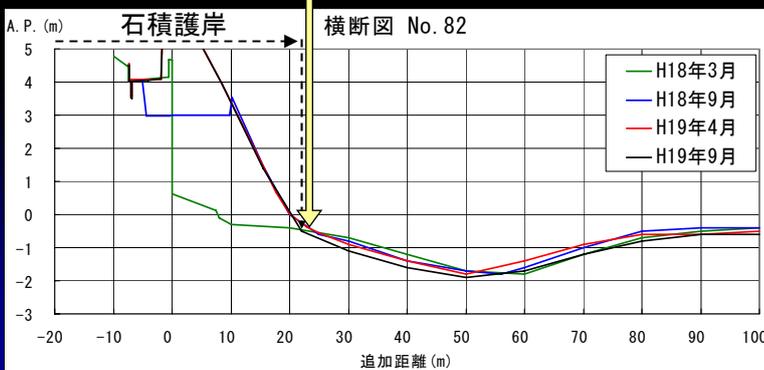
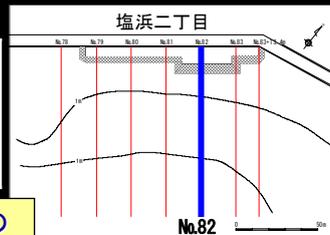
33

1-2 地形測量結果に関する検証結果

地形測量結果に関する検証基準

検証項目	目標達成時期	検証場所	基準とする値
地形変化	施行後1年後	石積み護岸ののり先	施工前海底面に対して、 $\pm 0.5\text{m}$

検証箇所(のり先)における施工前と施工後一年の地形変化は、10cm以下であった。



※H19年9月は、台風9号通過前の9月3日測量結果

34